

■教育行政のポイント

“普通科高校”の改革

菱村 幸彦

7月17日、中央教育審議会初等中等教育分科会の特別部会において、高校教育ワーキンググループがまとめた「新時代に対応した高等学校教育の在り方(これまでの議論を踏まえた論点整理)」(以下「論点整理」)が報告された。

論点整理の内容は多岐にわたるが、ここでは「普通科の改革」を取り上げる。

普通教育を主とする新学科

論点整理は、令和元年5月に出た教育再生実行会議の第11次提言を踏まえている。

第11次提言は、普通科に「類型」の設定を提言し、「類型の例」として、①自らのキャリアをデザインする力の育成を重視するもの、②グローバルに活躍するリーダーや国内外の課題解決に対応できるリーダーの育成を重視するもの、③サイエンスやテクノロジーの分野におけるイノベーターの育成を重視するもの、④地域課題の解決を通じて探究的な学びを重視するもの——を示した。しかし、論点整理は、「類型」という考え方はとらないで、普通教育を主とする新しい学科の創設を提案している。

まず、論点整理は、教育再生実行会議が示した4つの「類型の例」を高等学校に求められる「役割」とし、これに、⑤スポーツや文化芸術分野で活躍する素養の育成、⑥経済社会の活力を維持し成長分野の発展を担う素養の育成、⑦多様なニーズに対応した一人一人の能力・可能性の伸長、⑧これからの時代に求められる教養教育の提供を加えて、8つの役割を例示している。

その上で、普通高校が特色化・魅力化に取り組むために、従来の「普通科」に加えて、①学際科学的な学びに重点的に取り組む学科、②地域社会の課題解決に向けた学びに重点的に取り組む学科、③その他普通教育として特色・魅力ある教育を実現する学

科——の設置を提言している。

今後、中教審答申を受けて、高等学校設置基準(省令)を改正し、実施に移されることになるが、専門高校と同様、普通高校にも「その他の学科」が規定されることになれば、設置者の創意により多彩な普通学科の実現が可能となる。

スクール・ポリシーの導入

さらに、論点整理は、高校改革をより確かなものとするために、スクール・ミッションの再定義とスクール・ポリシーの策定を要請している。

まず、論点整理は、各高等学校の教育目標について、各学校の存在意義、期待されている社会的役割、目指すべき学校像をスクール・ミッションとして再定義することが必要だとする。

次いで、再定義されたスクール・ミッションを画餅にしないために、①卒業の認定に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)、②教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、③入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)の3つのスクール・ポリシーを策定・公表し、教育活動の指針とする必要があるとする。これは従来の高校改革論議にはなかった新しい手法である。

高校教育が抱える最大の問題は、能力・適性・進路・興味関心など多様に分化する15歳から18歳の年齢層の99%を「高等学校」という単一の学校制度の中に囲い込んで、同質の教育を施そうとしているところにある。

これまで何度も高校改革が審議会等で議論されたが、そこでは常に高校教育の多様化と柔軟化が課題となり、「新しいタイプの高校」や「特色ある高校」等が提言された。今回の論点整理の考え方も基本的にその方向にある。

(ひしむら・ゆきひこ＝国立教育政策研究所名誉所員)

●子どもも教職員も楽しく豊かに学べる場をめざして

ポスト・コロナの学校を描く

【編集】『教職研修』編集部 四六判／定価(本体 1,800 円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

